

社会福祉の理論をICT活用により実践 を通じて振り返る授業改善の取り組み

—東日本大震災支援を手掛かりにして—

東洋大学社会貢献センター長

東洋大学社会学部教授

森田明美

ゼミ活動一年の流れ

月	活動
4月	3、4年生顔合わせ、デイキャンプ準備
5月	デイキャンプ、レスパイト準備
6月	レスパイト事前学習
7月	サマーレスパイト、ゾンタハウス準備
8～9月（夏休み）	ゾンタハウス訪問、意見交換会
10月	夏の活動検証、白山祭準備
11月	白山祭、グループごとにフィールドワーク活動、報告書作成
12月	フィールドワーク活動、ゾンタハウスクリスマス会、報告書作成
1月	フィールドワーク活動報告、報告書完成、ゼミ論作成
2月	活動報告会、ゼミ論完成
3月	ゾンタハウス訪問

※社会福祉学科3・4年生約20名

TA：博士後期課程院生1名の支援を受ける

ゼミ活動で目指していること

- 福祉制度の外で起きている福祉課題を解決するために様々な市民が具体化しているフィールドで、何が起きているのかを学ぶ。
- 学生として継続的な支援を行うことにより、どういった力学が起きるかを経験する
- ゼミでは、1人ではなく、集団で学ぶ中で、事前事後の議論を大切にして、主体的に学ぶ。
- 活動ごとに責任者を決め実施前から最後まで責任をもち、そのことをとおしてマネジメント力をつける
- 社会福祉の問題を市民の生活レベルに落とし込めるようになってほしい。

本教育における社会福祉の理論 の振り返りの要素

1. 社会福祉課題へのソーシャルアクションを体験する
2. 当事者主体：市民・子ども参加の価値
3. 意味ある大人・安心できる居場所
4. 寄り添い続けることが育てる信頼感

東日本大震災への継続的な支援 の教育への導入

1. 2011年8月～卒業生と設立していたNPOを母体にして、岩手県山田町に中高校生を対象にした無料で誰もが利用できる軽食付き自習室の開設と運営への協力
2. 2011年7月～福島のみひとり親家庭の親子の2泊3日の保養プログラム：サマーレスパイトディズを毎年実施



3. 地域での子ども支援にかかわるフィールド活動：乳幼児集いのひろば、子ども食堂、地域空き家市民活動、学習支援、里親子の集い支援、など
4. 実践前後の話し合いの重視と情報の共有のためのICTの活用

ゼミ活動でのICTの使用

- 1). 教員を含む簡単な相互の連絡 LINEグループ1
- 2). 学生とTAの相互連絡 LINEグループ2
- 3). 教員と学生の情報の集約 パソコンTOYONET ACE
- 4). 卒業生や被災地、社会的広報 パソコン上のBCCで教員が学生の原稿や現地の原稿を毎月発信約1000人
- 5). 毎年活動報告書を作成、CDと印刷物として配布

※ボランティア支援室や社会貢献センターの活動との連携によって、学内学外への広報をする

- ①. 学生が主催する地域活性化事業支援として：里親子とのディキャンプの実施(大学内)ガクチカサプリの活用
- ②. 大学内：ボランティアフェスティバル、白山祭、同窓会などでの展示、報告会などへの参加
- ③. 被災地の子ども。若者活動への参加

ボランティア情報閲覧 (H29~30 106,610件閲覧累計)

情報の閲覧

各自治体やボランティアを求めている団体から依頼があった募集情報のうち活動内容が適切と判断されたものをToyoNet-ACEや支援室内の掲示板や閲覧用ファイルで閲覧できます。



ToyoNet-ACE
授業支援システム



ToyoNet-ACE

2017-04-27 (Thu)

林 大介 | 設定 | ログアウト

マイページ

コース

検索

メモ一覧

respon

English



000029g-t11

カクチカサプリ

担当教員: 東洋大学
2999

小テスト

アンケート

レポート

プロジェクト

成績

掲示板

コースコンテンツ

提出記録

トップページ

コースニュース



平成29年度東洋大学ボランティア支援室

東洋大学ボランティア支援室が4月1日からオープンします。
空いている時間を使って社会貢献してみませんか？
資料の閲覧だけでも可能です。

ボランティア活動をする・・・

- 新しい仲間ができる
- 自分の新たな可能性に気づく
- 大学にはない出会い
- 授業では得られない学び、喜び
- 就活での視野が広がる

気になったら、南水会館1F ボランティア支援室へ

・ボランティア支援室 公式HP



ボランティア支援室 (2).pdf - 2017-04-04 11:52:05

- ◆ 子ども・教育ボランティア募集... 2017-04-24
- ◆ 医療・保健、地域活性化・まち... 2017-04-24
- ◆ 国際ボランティア情報(4月24日... 2017-04-24
- ◆ 【お知らせ】聴覚障がい者への... 2017-04-19
- ◆ 医療・保健、地域活性化・まち... 2017-04-17

コースニュース一覧

スレッド (更新順)

スレッド作成

スレッドはありません。

スレッド一覧



東洋大学

サマーレスパイト

- 開催日程：2018年7月14日～16日
開催場所：東洋大学 河口湖セミナーハウス
- 目的
福島で被災し、外で思い切り遊べないひとり親家庭の子どもたちや、保護者の方にリフレッシュしてもらう。
- 内容（学生2人と子ども1人のペアで活動）
 - ★子どもの学習支援
 - ★BBQ
 - ★花火
 - ★レクリエーション 等…



レスパイト実施内容

1日目	2日目	3日目
セミナーハウスに移動	起床・ラジオ体操	起床・ラジオ体操
はじまりの会（顔合わせ）	朝食	朝食
レクリエーション （宇宙オニ）	BBQ・レクリエーション （ウォークラリー・スイカ割り）	終わりの会
夕食	学習・自由時間	見送り
花火	夕食	片付け
お風呂・学習	花火	東洋大学へ移動
就寝	お風呂・学習	
	就寝	



実践事例 1 :
中高校生軽食付き自習室
山田町ゾンタハウスの
取り組み

岩手県山田町での支援事例

I) 山田町の被災状況

岩手県山田町での活動

山田町発表資料から

【山田町について】

死亡者数	①	800人	平成25年4月15日11時現在
うち認定死亡者数	②	208人	
うち遺体判明者数	③	62人	
うち災害関連死亡者数	④	61人	
うち外国人死亡者数	⑤	1人	
行方不明者数	⑥	3人	平成25年4月2日18時現在
遺体の数	⑦	604体	平成25年3月31日17時現在 宮古警察署発表 ※ 山田町内で発見された遺体の数
人口の推移		震災前 平成23年3月1日 19,270人	
		震災後 平成25年3月1日 17,183人	



・被災家屋：55.8%
うち全壊：45.8%

・仮設住宅：1,940戸
※避難所は23年8月末で
すべて閉鎖

2) なぜ中高校生支援を考えたのか —ソーシャルアクションへの挑戦

山田町ゾンタハウスの取組み

子ども

- ✓学習スペース
(自習+学習支援、寄り添い)
- ✓居場所
- ✓軽食提供

見守り、
支え、
応援する

大人

街かどギャラリー

- ✓誰でも立ち寄れる
- ✓文化活動拠点
- ✓仮設入居者の交流、憩いの場

3) 山田町ゾンタハウスの開設を決断した背景 -人と場、財源をつくり出す

1F部分が津波で浸水したものの、大規模火災の被害は受けなかった建物を賃借し、清掃・修繕をして使っています。

山田町ゾンタハウス

おらーほ・自習スペース



2F

昼間：はなまるママ

夕方～：「おらーほ」軽食・休憩



街かどギャラリー

昼間：大人(主に女性)

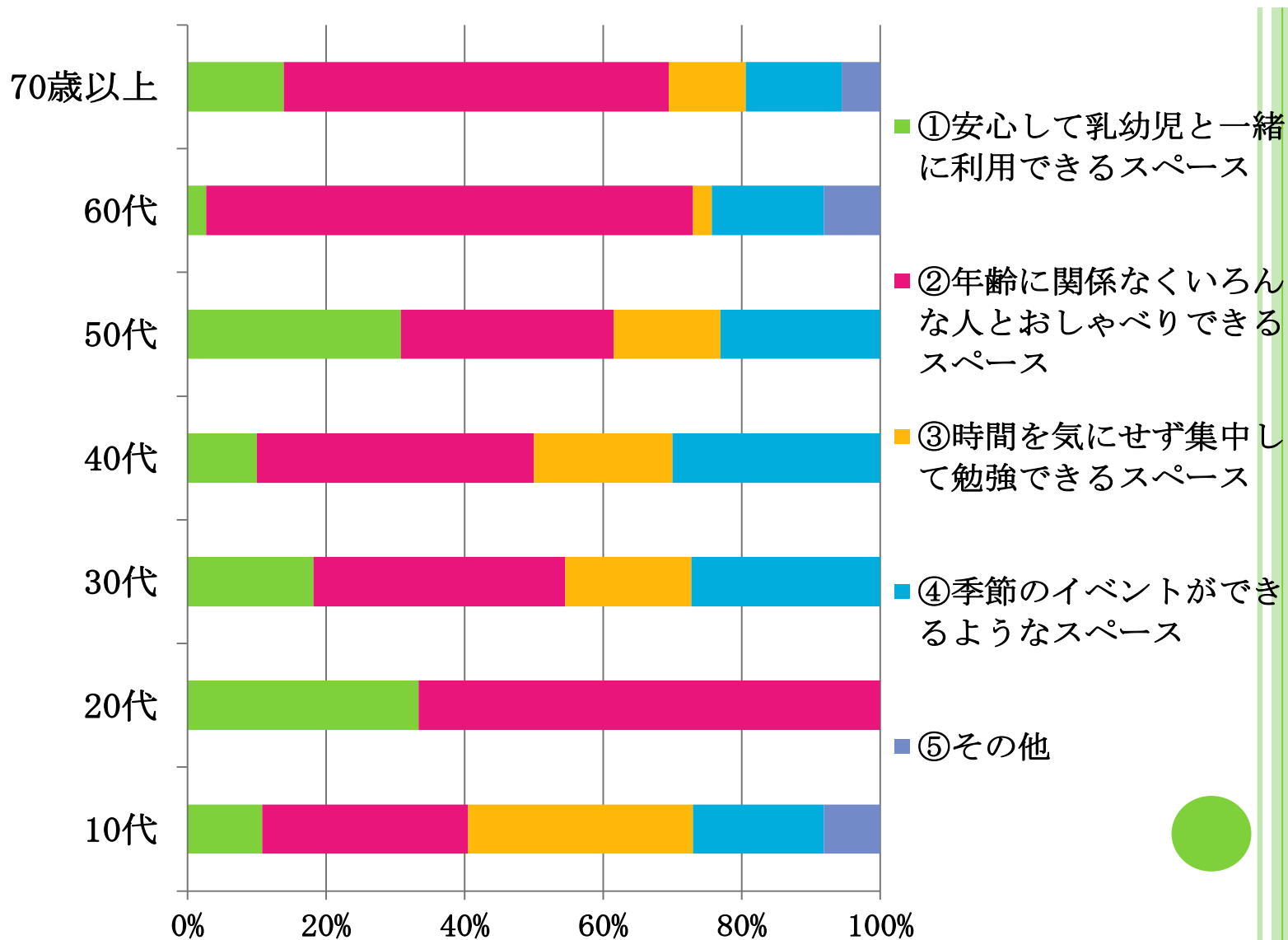
午後：小学生や中学生



1F

4) 斜めの関係で意味ある大人として関わる

* ゾンタハウス高校生が実施した調査 2016年1月

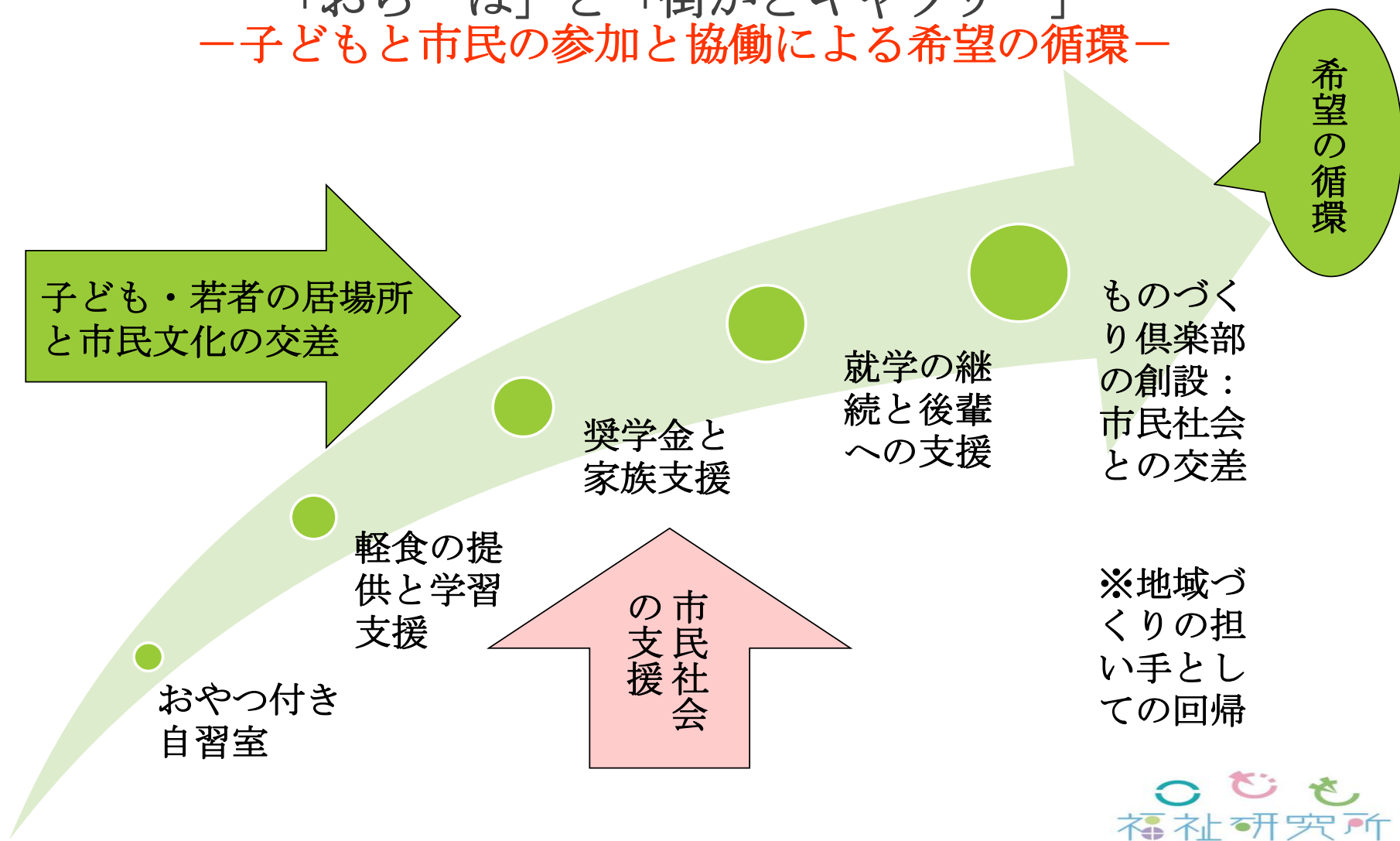


5) 話すことと聴くことが作り上げる 復興への希望

- 「壊れた跡が残った街の方が好きだった。何もかもが消えていくんだ。これは復興じゃないと思う」ちっちゃい子たちは、ここからはじまるからここが故郷。じっちゃんやばっちゃんたちは、便利になれば後はもうしょうがないと思ってる。
- でも、うちらは「あの山田町」が故郷で、「この山田町」で生きていく。だから、なんだか悲しい。だから人間をつなげていきたい。」
- 「誰かのためにカフェをするとかそんなんじゃあなくて、自分たちはたくさんたくさんいろんなことしてもらって助けてもらって。自分たちの事思ってくれた人たちに、皆さんの気持ちが届いてこんなに元気にやっていますよ、みんなに元気を分けられるくらい元気でやっています。ありがとうございますっていうのを伝えるのにカフェを選んだだけ。最初はただ面白いことができるかなあって思ったけど、来た人が喜んでくれて、ああこういうことがしたかったのかも？って思ったし、まだまだ受け取った気持ちの半分も返せてないと思う。」
- ここに、震災の後、自分の青春を大切に生きてきた女子高生たちの誇りが育っている。 [おらーほ便り2016年11月]

6) 山田町ゾンタハウス支援の構造

「おらーほ」と「街かどギャラリー」
—子どもと市民の参加と協働による希望の循環—



山田町ゾンタハウスと東洋大学

- 東洋大学の旗：3代目の旗がなびく
- 東洋大学森田ゼミ学生：長期休暇中の学生が2011年度から支援活動に滞在。交通費は大学負担、ゾンタハウスに宿泊、自炊。現地スタッフが学生の活動計画やサポート役。学生のボランティア活動日数は、2011年度延100人日、2012年度延70人日、2013年度延50人日、2014年度延100人日、2015年度延130人日、2016年度延113人日、2017年度延98人日
- 意見交換会などで上京するゾンタハウスの子どもたちとの交流活動。
- 子ども参加、意見表明、子ども支援に関する総合的なサポート



東洋大学の支援体制

東日本大震災復興支援から作り上げた 東洋大学での支援体制

1) 震災直後の支援

- ・ 在学生・保護者への支援
- ・ 授業料の免除、試験や受験生への配慮など
- ・ 被災地・者への支援

2) 支援活動における学生の安全の確認後：宿泊と食事、指導者などの確保

- ・ 暮らしの回復活動などへの学生グループでの支援活動
- ・ 教員や地域団体に所属して学生が暮らしの回復活動を担う

3) 支援活動：研究、教育、社会貢献の視点からの活動と総合化

①学生課外活動費からの学生への経済的支援

ア. 学生部職員による学生ボランティア団体と共同した支援活動
イ. ボランティア支援室による被災地支援活動の継続→学生主体活動の提案へ

②学長施策など教員（団体）への研究費助成：2011・2012年度は特別予算化

例：「社会学部社会福祉学科学長施策教育活動改革支援」として特別予算で取り組む。2013年度～2016年度東日本大震災における学生と教員の共同支援活動の展開、2017年度～東日本大震災復興支援を継続・発展させる学生の支援活動の開発、ゾンタハウス支援と福島母子家庭との合宿活動を中心に、年間約300万円予算措置2013年～2016年度は助教採用

〈東日本大震災支援活動〉

- 2011年3月末：東日本大震災子ども支援ネットワーク事務局
- 2011年6月ごろ：多くの国際支援団体からの支援の申し出がある※つなぎ先は従前の団体、個人が手掛かり
- 2011年 7月：山梨県富士見高原大学セミナーハウスを利用した福島の子家庭親子の一時避難と休息の保障活動「サマーレスパイト開始」以降毎年実施
- 2011年8月末：森田ゼミ学部生と院生が軽食付き中高校生自習室山田町ゾンタハウスの開設に向けた建物の整備活動と広報に現地で活動以降、学生を中心に毎年長期休暇中の訪問を実施
- 2012年冬：学生たちと被災地の子どもたちの意見交換会を開催、以降毎年開催2017年度からは夏に移行、2018年は仙台で実施

※学生の旅費、宿泊費、参加者については、様々な民間助成金や、団体との共催によって共同開催。学生の活動をリレー形式でつないだ

森田ゼミで学んだこと、身についたこと

★ゼミ生の声

- 机上だけではなく、実体験として学ぶことができる。
- 子どもに対して耳を傾けることが重要なため、「傾聴力」を身につけられた。
- 子どもや保護者の抱える課題を共有し、解決の方法を市民活動などで解決していく現場を体験した
- ディキャンプ、サマーレスパイト、被災地支援などの企画、事前学習、準備、実施、反省、まとめ、報告書作成作成「マネジメント力」がついた。
- 子どもと関わることの大変さを知った。
- 支援を継続することの大切さ、グループ活動を学べる。